

第 7 回 NDLS (National Disaster Life Support) インストラクターコースに参加しました (2017/7/1)

テーマ：多数傷病者への対応標準化トレーニング（米国）
 場所：東京医科歯科大学（東京都文京区）

2017 年 7 月 1 日(土)、東京都文京区の東京医科歯科大学 3 号館において第 7 回 NDLS (National Disaster Life Support) インストラクターコースが開催され、佐々木宏之助教（災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野）が参加しました。NDLS とは 2001 年 9 月 11 日の米国同時多発テロ事件を契機に 2003 年に米国医師会、CDC、ジョージア大学、テキサス大学などを中心に設立された多数傷病者災害対応トレーニングプログラムです。米国全体の災害対応トレーニングを標準化し大規模災害に対するシステムを強化することを目的としていますが、米国以外でも講習が行われ、これまでに世界で 7 万人以上がコースを受講、世界では 3000 人以上のインストラクターがいます。

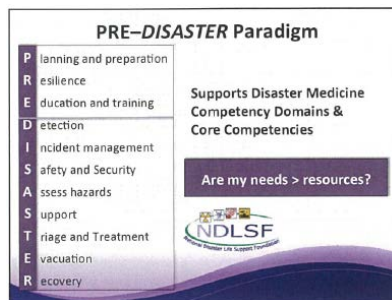
米国発の多数傷病者災害対応トレーニングプログラムだけありその内容は多岐に渡り、日本の災害医療研修コースは自然災害や事故対応が中心となりますが、NDLS では爆弾テロ、銃撃テロ、エボラウイルス感染症、塩素ガス漏洩事案などへの対応もコース内に含まれます。また、日本では START 変法というトリアージ方法が一次トリアージの主流となっていますが、米国では SALT トリアージ法が多く採用され、これはトリアージの途中で解毒剤注入などのステップが存在するなど、日本の方法と異なる点が少なくありません。

当日は日本各地より、災害医療に熱意のある医師、看護師、救命救急士など 27 名が集まり、NDLS による成人教育の理念・手技について学習しました。レベル C 化学防護服を着用しての医療行為実習や爆発したビルを模したガレキ下をヘルメットを着用して進入し傷病者対応にあたるなど、日本の災害医療研修コースよりもより厳しい環境下での研修が多く、受講生の安全・健康確保がより重要となるため、佐々木助教を含むインストラクターコース受講生は真剣な面持ちで研修に臨みました。夕方までの研修を無事に終え、全員無事にインストラクター資格を得ることができました。

爆弾テロやウイルス性出血熱感染症対応など、現在の日本では一見して無縁のことに思われますが、今後東京オリンピックなどのマスコザリングイベントをひかえていること、交通手段の発達に伴うヒトの動きの活性化などもあり、「対岸の火事」では決して済まされない状況となっています。また、日本集団災害医学会における災害医療研修コースも、CBRNE (C: Chemical, B: Biological, R: Radiological, N: Nuclear, E: Explosive) や大量殺傷型テロを念頭においたサブコースが増加しています。佐々木助教は今後、各地で開催される NDLS コースや災害医療研修コースにインストラクターとして参加し、災害・一般医療従事者に対する研修指導を行う予定です。また 10 月 29 日(日)には東北大学にて日本集団災害医学会セミナーの開催を予定しています。



各国で開催される NDLS コース



多数傷病者発生事案に対する NDLS の基本的な考え方、PRE-DISASTER Paradigm



SALT トリアージの構成